

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3239584号
(U3239584)

(45)発行日 令和4年10月25日(2022.10.25)

(24)登録日 令和4年10月17日(2022.10.17)

(51)国際特許分類

F I

A 4 5 C 7/00 (2006.01)

A 4 5 C 7/00 L

A 4 5 F 3/04 (2006.01)

A 4 5 F 3/04 3 0 0

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全9頁)

(21)出願番号 実願2022-2905(U2022-2905)

(22)出願日 令和4年8月15日(2022.8.15)

(特許庁注：以下のものは登録商標)

1. マジックテープ

(73)実用新案権者 522347601

柿添 敏子

熊本県山鹿市山鹿 5 4 6 - 8

(72)考案者

柿添 敏子

熊本県山鹿市山鹿 5 4 6 - 8

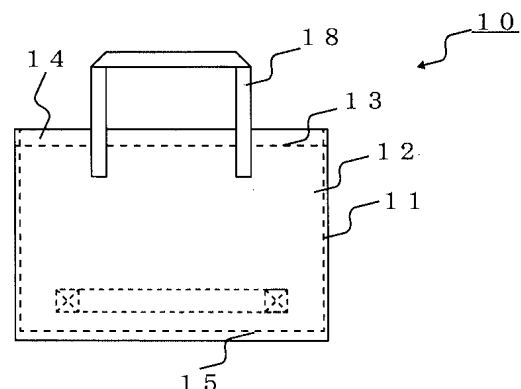
(54)【考案の名称】 バック

(57)【要約】 (修正有)

【課題】他の袋を持ち運ぶことなく、急な荷物の増大に対応できるように収納量を可変させることができるバッグを提供する。

【解決手段】バッグ10は、物を収納する収納部11と、収納部の内側に重ねて収納部内に収納される袋部12であって、袋部の開口部13の周囲の縁が収納部の開口部14の内側周囲の縁に沿って係止され、係止により収納部と連結し、連結部がストッパーとなって収納部から抜け落ちずに収納部の開口部から引き出し可能な袋部とを備え、袋部の開口部に対向する側の底部15に底部開口部17があり、底部開口部を開閉可能にする開閉部16を備える。

【選択図】図1



10

【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

物を収納する収納部と、

前記収納部内に重ねて収納される袋部であって、前記袋部の開口部の周囲の縁が前記収納部の開口部の内側周囲の縁に沿って係止され、係止により前記収納部と連結し、連結部がストッパーとなって前記収納部から抜け落ちずに前記収納部の開口部から引き出し可能な前記袋部とを備え、

前記袋部の前記開口部に対向する側の底部に底部開口部があり、前記底部開口部を開閉可能にする開閉部を備えることを特徴とするバッグ。

【請求項 2】

10

前記袋部の内側の下方部には、前記袋部を引き出した際に持ち手となる持ち手部を備えることを特徴とする請求項 1 に記載のバッグ。

【請求項 3】

前記収納部の外側の下方部と前記袋部の内側の下方部には、前記バッグを背負うための背負い紐を引っ掛ける引っ掛け部を備えることを特徴とする請求項 1 に記載のバッグ。

【請求項 4】

前記開閉部はジッパー構造、紐を引いて絞る構造、マジックテープ構造のいずれか 1 つであることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 つに記載のバッグ。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】**

20

【0001】

本考案は、収納量に応じて形状を変形できるバッグに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、ユーザは使用目的に応じてカバンを選択し、使用する。カバンを選択する際、外觀などの他に使用目的に応じた収納量を有するカバンを選択する。例えば、仕事用のカバンであれば書類、財布、ハンカチ、ティッシュ、携帯電話などの小物を入れることができる程度の大きさで足りるため、それほど大きい収納量を有するカバンは必要ない。このようなカバンの場合に、仕事帰りに買い物をし、多くの商品を購入した場合には多くの商品をカバンに入れることができない。そのため、別途の買い物袋（ビニール袋など）を購入して持ち帰っていた。しかし、近年では環境問題が深刻化しており、買い物した商品を入れるための袋を持参して買い物する客が増えている。そうした状況において持参袋（エコバッグ）を持ち歩く人が増えている（特許文献 1 を参照）。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】実用新案登録第 3 2 2 6 6 7 4 号

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

40

しかし、このような袋は仕事用のカバンとは別に用意して常に持ち運ぶ必要があり、荷物が増えるとともに袋を入れ忘れてしまうという問題もある。

【0005】

本考案は、上記従来の問題を解消するためのものであって、他の袋を持ち運ぶことなく、急な荷物の増大に対応できるように収納量を可変させることができるバッグを提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

前記課題を解決するために、請求項 1 に記載の考案にあっては、物を収納する収納部と、前記収納部の内側に重ねて収納部に収納される袋部であって、前記袋部の開口部の周囲

50

の縁が前記収納部の開口部の内側周囲の縁に沿って係止され、係止により前記収納部と連結し、連結部がストッパーとなって前記収納部から抜け落ちずに前記収納部の開口部から引き出し可能な前記袋部とを備え、前記袋部の前記開口部に対向する側の底部に底部開口部があり、前記底部開口部を開閉可能にする開閉部を備えることを特徴とする。

【0007】

請求項2記載の考案にあっては、前記袋部の内側の下方部に、前記袋部を引き出した際に持ち手となる持ち手部を備えることは好ましい態様である。

【0008】

請求項3記載の考案にあっては、前記収納部の外側の下方部と前記袋部の内側の下方部に、前記バッグを背負うための背負い紐を引っ掛ける引っ掛け部を備えることは好ましい態様である。 10

【0009】

請求項4記載の考案にあっては、前記開閉部がジッパー構造、紐を引いて絞る構造、マジックテープ構造のいずれか1つであることは好ましい態様である。

【考案の効果】

【0010】

請求項1記載のバッグにあっては、物を収納する収納部と、前記収納部の内側に重ねて収納部内に収納される袋部であって、前記袋部の開口部の周囲の縁が前記収納部の開口部の内側周囲の縁に沿って係止され、係止により前記収納部と連結し、連結部がストッパーとなって前記収納部から抜け落ちずに前記収納部の開口部から引き出し可能な前記袋部とを備え、前記袋部の前記開口部に対向する側の底部に底部開口部があり、前記底部開口部を開閉可能にする開閉部を備えることにより、他の袋を持ち運ぶことなく、急な荷物の増大に対応できるように収納量を可変させることができる。 20

【0011】

請求項2記載のバッグにあっては、前記袋部の内側の下方部に、前記袋部を引き出した際に持ち手となる持ち手部を備えることにより、バッグの収納量を増大した場合でも持ち運ぶことを容易にすることができる。

【0012】

請求項3記載のバッグにあっては、前記収納部の外側の下方部と前記袋部の内側の下方部に、前記バッグを背負うための背負い紐を引っ掛ける引っ掛け部を備えることにより、バッグの収納量を増大した場合でも背中に背負うことができ、容易に運ぶことができる。 30

【0013】

請求項4記載のバッグにあっては、前記開閉部がジッパー構造、紐を引いて絞る構造、マジックテープ構造のいずれか1つであることにより、収納量を増大した場合のバッグの開口部を開閉することができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本考案に係るバッグの正面を示す図である。

【図2】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の正面を示す図である。

【図3】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の側面を示す図である。 40

【図4】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の側面の断面を示す図である。

【図5】本考案に係るバッグの斜視図である。

【図6】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の斜視図である。

【図7】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の斜視図であって、開閉部が巾着構造である場合の図である。

【図8】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の斜視図であって、開閉部が巾着構造であって紐を絞った場合の図である。

【図9】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の斜視図であって、バッグをリュック型にした場合の図である。

【図10】本考案に係るバッグの袋部を引き出した際の斜視図であって、バッグがリュック 50

ク型であって開閉部がマジックテープの場合の図である。

【考案を実施するための形態】

【0015】

以下、本考案に係るバッグを、一実施形態に基づき、図面を参照して説明する。

【0016】

まず、一実施形態の構成について説明する。図1～図10は本考案に係る一実施形態のバッグを説明するための図である。

【0017】

この一実施形態のバッグ10は、物を入れて運ぶためのバッグであって、例えば仕事用のカバンであってもよく、買い物をした際の購入商品を入れて持ち運ぶためのバッグであってよい。ここでは財布や携帯電話などの小物や書類などを入れるバッグとして説明する。

10

【0018】

バッグ10は、図1～図3に示すように、物を収納する収納部11と、収納部11の内側に重ねて収納部11内に収納される袋部12であって、袋部12の開口部13の周囲の縁が収納部11の開口部14の内側周囲の縁に沿って係止され、係止により収納部11と連結し、連結部がストッパーとなって収納部11から抜け落ちずに収納部11の開口部14から引き出し可能な袋部12とを備え、袋部12の開口部13に対向する側の底部15に底部開口部17があり、底部開口部17を開閉可能にする開閉部16を備える。なお、バッグ10の構成はこれに限定されるものではなく、他の収納部、例えばハンカチやティッシュペーパーなどの小物を入れるポケットがバッグ10の外面についていたりしていてもよい。

20

【0019】

収納部11は、財布や携帯電話などを収納する収納空間を有するものである。収納部11の外周面、すなわち収納空間側ではない外部に接する面にはバッグ10を持つための取っ手18が取り付けられており、また不図示の収納ポケットなどが取り付けられていてもよい。収納部11の素材は特に限定されるものではなく、例えば革素材、布素材、ビニール素材など様々な素材が考えられる。

【0020】

袋部12は、収納部11の内側、すなわち収納空間に収納されるものであって、収納部11に収納されている状態では図1の破線で示すように収納部11の内側に袋状に広げて重ねられている。すなわち、収納部11と袋部12が二重になっている状態であって、収納部11の内面と袋部12の外表面が接しており、袋部12の内面は収納部11に物が入れられた際に物が当接する部分になるものである。なお、袋部12は収納部11の内側に袋状に広げて重ねられていなくてもよく、例えば折り畳まれた状態や袋部12の底部15が手繰り寄せられて開口部13付近でまとめられて収納されていてもよい。

30

【0021】

袋部12は収納部11と連結されているが、具体的には袋部12の開口部13の外側周囲の縁が収納部11の開口部14の内側周囲の縁に沿って、例えば縫製、接着剤による接着、融着などで袋部12が収納部11と連結（結合）されている。連結の仕方はこれらに限定されるものではない。このとき、袋部12は開口部13の外側周囲の縁のみが収納部11に連結されるため、図2に示すように袋部12の底部15を収納部11の開口部14から上部に引き出すことが可能となる。すなわち、袋部12が逆さま（袋部12の底部15が上方、袋部12の開口部13が下方）の状態になる。また連結部がストッパーとなり袋部12が収納部11から抜け落ちない（すなわち、取れない、外れない）ようになっている。

40

【0022】

ここで、袋部12の開口部13に対向する側の底部15には底部開口部17があり（図3を参照）、また底部開口部17を開閉可能にする開閉部16を備える。開閉部16は、後述するジッパー構造、紐を引いて絞る構造（巾着構造）、マジックテープ構造のいずれ

50

か１つであるが、これに限定されるものではなく、底部開口部１７を開閉することができるものであればよい。図２や図３に示されている開閉部１６はジッパーである。底部開口部１７は、袋部１２が収納部１１の内側に収納されて使用される場合には開閉部１６によって開口が閉じられる。開閉部１６によって開口が閉じられることにより、袋部１２は底部１５が閉じられた袋として使用される。

【００２３】

一方、図２に示すように、袋部１２を収納部１１から引き出して使用する場合には底部開口部１７は開閉部１６によって開口が開かれる。これにより、底部開口部１７は収納部１１の収納空間（収納空間）と袋部１２の収納空間（収納量）を合わせたバッグ２０の開口部となる。すなわち、収納部１１と袋部１２が連結し、それぞれの内部が貫通した大容量のバッグ２０の開口部となる。買い物などをすることで荷物が増えた際などにこのように袋部１２を収納部１１から引き出して大容量のバッグ２０とすることで多くの荷物を収納でき容易に運ぶことができる。また、荷物を入れた後に開閉部１６を閉じることによって収納した荷物が飛び出ないように蓋をすることができる。

10

【００２４】

また、図２に示すように大容量のバッグ２０とした場合にバッグ２０を持つための取っ手１９を袋部１２に設けるようにしてもよい。すなわち、袋部１２が収納部１１に収納された状態における袋部１２の内側（収納した荷物が当接する面）の下方部には、袋部１２を引き出した際に持ち手となる持ち手部（取っ手１９）を備えてもよい。これにより、大容量のバッグ２０とした場合でも容易にバッグ２０を持ち運ぶことができる。なお、図２はバッグ２０の正面図であるため、取っ手１９は正面側の１つしか見えていないが反対側にも対となる不図示の取っ手が付いている。また、取っ手１９は図２に示す形状や大きさに限定されるものではなく、バッグ２０を持つことができれば他の形態であってもよい。

20

【００２５】

図３は図２に示すバッグ２０の側面を示す図である。図３に示すように、バッグ２０は袋部１２の底部開口部１７が開閉部（ジッパー）１６によって閉じられていない状態、すなわち開いた状態を示しており、この底部開口部１７が物を入れるための開口部となる。なお、図３に示す一点鎖線は収納部１１の収納空間部分の省略を示している。

【００２６】

図４は図２に示すバッグ２０をＡ－Ａ'の位置で切った際の断面図を示す図である。図４に示すように、底部開口部１７から入れられた物は収納部１１の開口部１４、袋部１２の開口部１３を通過し、収納部１１の底４０から順に積み重ねられていく。なお、一点鎖線は収納部１１の収納空間部分の省略を示している。

30

【００２７】

図５はバッグ１０を斜めから見た際の斜視図を示す。図５に示すように、収納部１１は破線で示された袋部１２を袋状にして収納している。このとき、袋部１２の底部開口部１７は開閉部１６によって閉じられている。図５では開閉部１６がジッパーの場合を示している。また、取っ手１９は破線で示されているように袋部１２の内側（収納した荷物が当接する面）の下方部に取り付けられている。袋部１２の内側に取っ手１９が取り付けられていることにより、図６に示すように袋部１２が収納部１１から引き出された場合に取っ手１９が外面に現れ、バッグ２０の取っ手１９として機能する。袋部１２が収納部１１から引き出された場合にはジッパー１６を開いて底部開口部１７を開口部とすることで大容量のバッグ２０として利用できるようになる。

40

【００２８】

図７は開閉部１６を巾着構造にした場合を示している。巾着構造は紐７０を引っ張って絞ることにより底部開口部１７が閉まり、紐７０を緩めることにより底部開口部１７が開くようになる。

【００２９】

図８は図７の変形例を示している。図８に示す巾着構造では紐７０が輪８１に通され、紐７０にストッパー８０を取り付けることにより紐７０が輪８１から抜けないように留め

50

られている。このような構成により、紐 70 を引っ張って絞り、絞った状態でストッパー 80 を紐 70 上で移動させ、輪 81 部分でストッパー 80 を留めることにより、巾着の開口部が閉じたままとなる。そして紐 70 を両肩に通して掛けることによりリュックサックのようにバッグ 20 を背負うことが可能となる。

【0030】

図 9 は取っ手 19 の代わりに背中に背負うための構成を付けた場合を示している。図 9 では開口部 16 がジッパーの場合を示しているが、巾着構造であってもよい。図 9 に示すように、バッグ 20 には、背負うために両肩に通して掛けるショルダーストラップ 90 と、ショルダーストラップ 90 を固定するための留め具であって、収納部 11 の外面に取り付けられた留め具 91 と、袋部 12 の内側の面に取り付けられた留め具 92 が設けられて 10

【0031】

袋部 12 が収納部 11 に袋状に収納されている場合にはショルダーストラップ 90 は留め具 91、92 から取り外されている。袋部 12 を収納部 11 から引き出して大容量のバッグ 20 として使用する場合にショルダーストラップ 90 を留め具 92 に通して、通されたショルダーストラップ 90 の各先端を留め具 91 に取り付ける。留め具 91 にショルダーストラップ 90 を取り付ける際、例えば差し込みバックル（サイドリリースバックル）などを用いてもよい。これにより、リュックサックのように背負うことができ、容易に荷 20

【0032】

図 10 は図 9 に示すバッグ 20 のジッパー 16 をマジックテープ 16 にした場合の変形例を示している。マジックテープ 16 にすることにより、底部開口部 17 を簡単に開閉させることができる。図 10 に示すバッグ 20 と図 9 に示すバッグ 20 の違う点は、ショルダーストラップ 90 を固定するための留め具が差し込みバックルなどワンタッチではめ込むタイプの留め具 91 を、フック 100 を輪 101 に引っ掛けて止めるタイプの留め具にしている点である。フック 100 にはフックが簡単に外れないようにフック外れ止めが付 30

【産業上の利用可能性】

【0033】

本考案に係るバッグは、他の袋を持ち運ぶことなく、急な荷物の増大に対応できるように収納量を可変させることができるため、産業上の利用可能性を有している。

【符号の説明】

【0034】

10、20 バッグ

11 収納部

12 袋部

13 袋部の開口部

14 収納部の開口部

15 底部

16 開閉部

17 底部開口部

18、19 取っ手

40 収納部の底

70 紐

80 ストッパー

81、101 輪

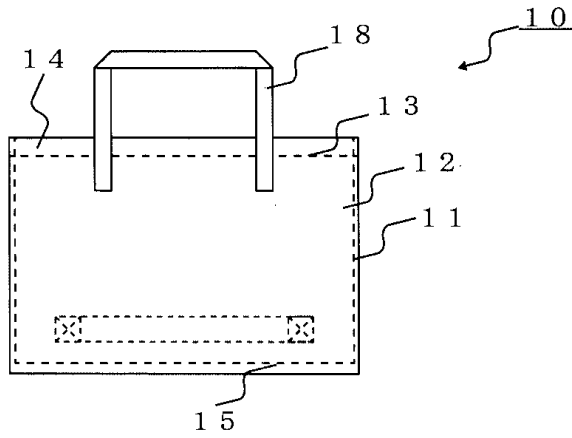
90 ショルダーストラップ

91、92 留め具

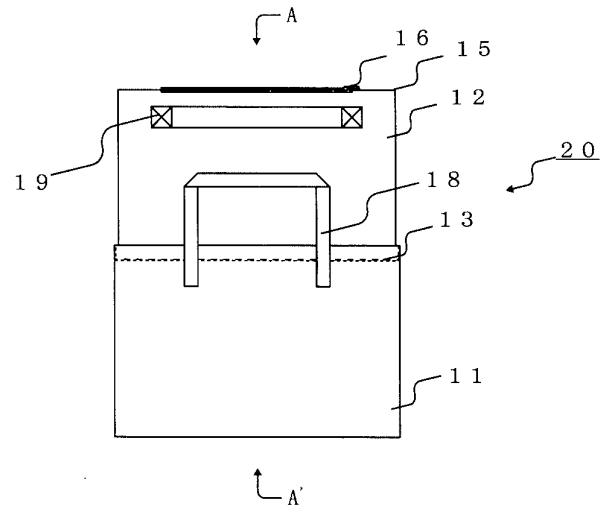
100 フック

【図面】

【図1】



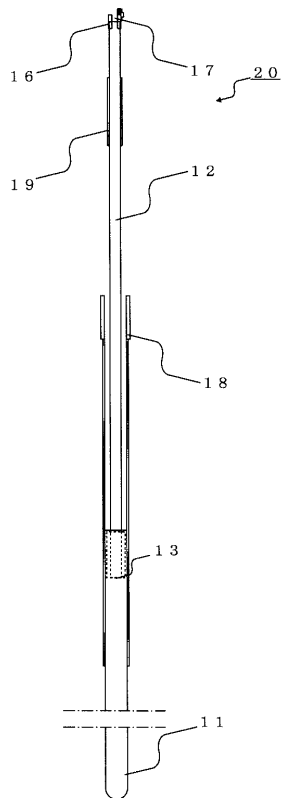
【図2】



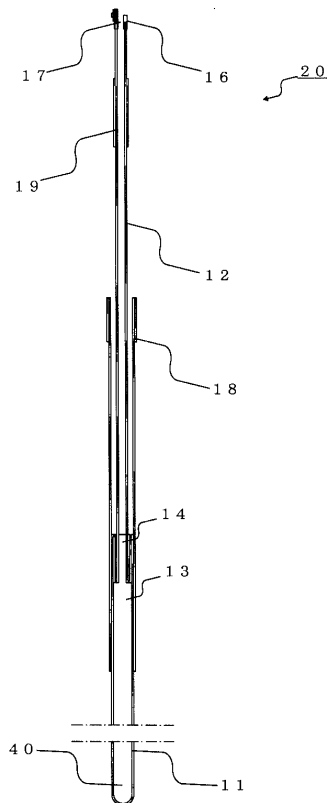
10

20

【図3】



【図4】

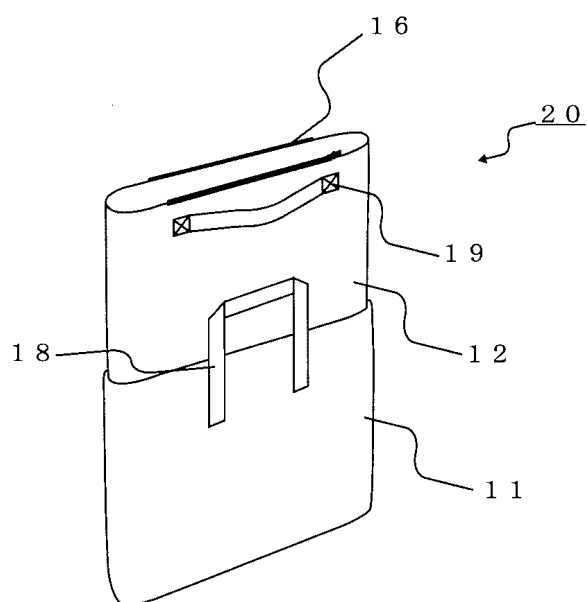


30

40

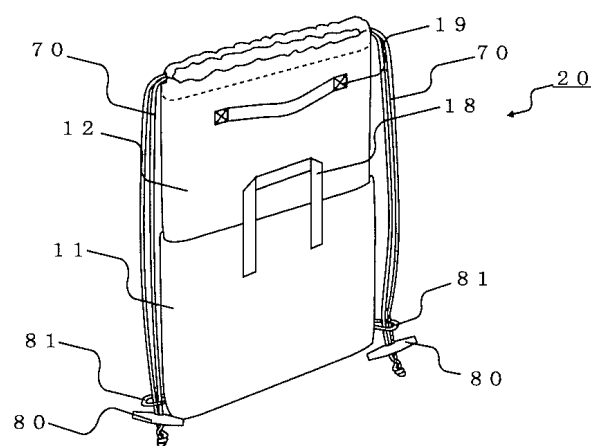
50

【 図 6 】



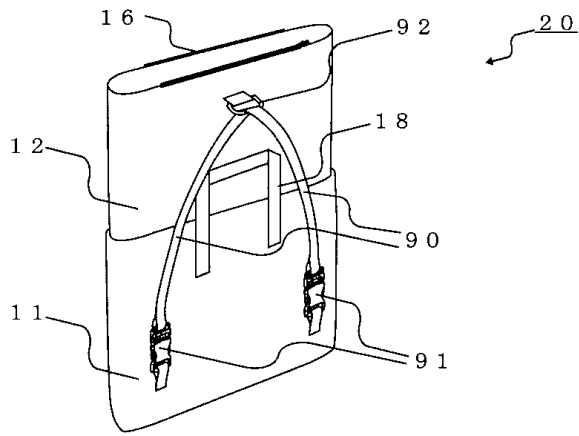
20

【 図 8 】

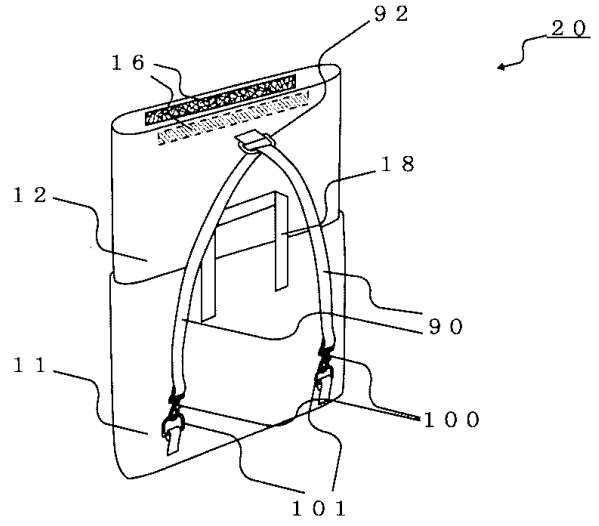


40

【図 9】



【図 10】



10

20

30

40

50